

科目区分	専門教育科目	科目名	子どもと表現（音楽）		科目コード	21Y350	担当者	福井 昭史			
対象学生	幼児教育学科 1年生	学期区分	前期		単位数	1	担当形態	単独			
		授業形態	演習								
科目		施行規則に定める科目区分又は事項等				卒業要件	必修				
領域及び保育内容の指導法に関する科目		領域に関する専門的事項（表現）				免許・資格要件	幼稚園教諭必修、保育士必修				
科目の主題						学修成果との関連（大◎、中○、小△）					
領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊び、特に音楽に関する活動の意味と実践に関する知識や技能を身につける。						1. 「 良心 」 誠実な人柄と 人間力	2. 「 創造 」 高度な知性と 創造力	3. 「 実践 」 明確な意思と 実践力			
科目の到達目標						① 誠実性・真摯性	② 多様性・協働性	③ 知識・技能	④ 表現力・創造断力	⑤ 実行力・自立性	⑥ 就業力・貢献力
1.	乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて要領・指針を基に説明できる。										
2.	表現を生成する過程について理解している。										
3.	幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。										
4.	協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。					○	○	◎	◎	○	○
5.	様々な音楽的表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。					成績評価の方法と割合					
授業方法						受講態度（30%） 提出物（40%） 発表内容（30%）					
乳幼児の遊びや生活における領域「表現」について理解した上で、音楽的表現活動を援助する上で必要と思われる音楽的基礎知識・技能を演習及び講義により継続的に指導する。1年前期15回の授業の中で受講生の習熟度や進度により柔軟に対応する。											
課題等への対応						授業外学修時間					
ほぼ毎時間課題の添削を行う。						15時間					
回数	授業計画					学習課題（予習・復習）					
第1回	保育者に必要な知識と技能について、「子どもと表現」で獲得する知識					楽典（音名と階名）、教育要領の予習					
第2回	読譜の基礎と楽典① 幼稚園教育要領を基に幼児の発達と表現理解する					楽典（音階・長音階）、教育要領の予習					
第3回	読譜の基礎と楽典② 幼児の発達と音楽表現について考える①					楽典（音階・短音階）、表現について予習					
第4回	読譜の基礎と楽典③ 幼児の発達と音楽表現について考える②					楽典（音階・日本の音階）、表現について復習					
第5回	音階と和音① わらべ歌あそび 幼児の発達と音楽表現について考える③					楽典（和音・三和音）、わらべ歌あそびの予習、発達と表現の予習・復習					
第6回	音階と和音② 子どもの歌の歌唱法①					楽典（和音・長調の和音）、階名について予習					
第7回	音階と和音③ オルフ、コダーイの音楽教育「おんがくづくり」 子どもの歌の歌唱法②					楽典（和音・短調の和音）、子どもの音楽教育の予習					
第8回	音階と和音④ ダルクローズの音楽教育「おんがくづくり」の指導法 子どもの歌の歌唱法③					楽典（和音・各調の和音）、子どもの歌予習					
第9回	拍子とリズム① 簡易楽器や手作り楽器の基礎知識と表現①					楽典の課題 拍子・リズムについて予習					
第10回	拍子とリズム② 簡易楽器や手作り楽器の基礎知識と表現② 子どもの歌の伴奏法①					楽典の課題 子どもの歌の練習					
第11回	拍子とリズム③ 子どもの歌の伴奏法②					楽典の課題 音階について予習					
第12回	音楽的表現活動の事例に沿って考える①（ICTや映像資料などの活用含む）					楽典の課題 グループワーク					
第13回	音楽的表現活動の事例に沿って考える②（ICTや映像資料などの活用含む）					楽典の課題 グループワーク					
第14回	幼児の総合的表現活動					楽典の課題 グループワーク					
第15回	基礎的な楽典と幼児の音楽表現についてまとめ					楽典の課題 定期試験準備					
試験	定期試験を実施しない										
教科書	こどものうた200 チャイルド社 最新・幼児の音楽教育（幼稚園教育要領・保育所保育指針） 朝日出版社					受講生へのメッセージ 「子どもの歌と伴奏法」「保育と音楽表現」の基礎として、教育実習・保育実習の準備として、保育者に必要な知識の習得を目指して勉強しましょう。					
参考書等	なし										